

平成23年度学内版 GP 成果報告書

取組名	臨床心理士養成カリキュラムにおける実習指導の質向上を目指すプログラム
実施組織	教育学研究科学校教育学専攻臨床心理学専修
実施責任者	鈴木俊太郎
取組の目標	教育臨床のみならず、福祉臨床領域、病院臨床領域でも汎用性を発揮でき、連携力を発揮できるスペシャリスト(臨床心理士)養成実施のためのカリキュラム改革を実施すること。
1. 目標達成のために行った活動と成果 (箇条書きで項目ごとに番号を付けて記載。成果の詳細は必要に応じて別添とする)	1. 心理検査等の検査実習に必要な用具の整備・充実を行い、学生が最新の検査に習熟できる環境を整えた。 2. 最新の検査道具の使用法について、学部の授業(心理検査法演習)と連動し、大学院生にその使用法を専門教員が指導した(15コマ分に相当する指導時間を設けた)。 3. 心理教育相談室における面接実習の際、心理アセスメントの一環として心理検査の実習を行った。臨床心理士有資格教員5名によるスーパーバイズを行いながら、さらに使用法の習熟、解釈、情報伝達の技術について学びの機会を設けた。 4. 「学校実習」という新しい実習を企画し、スクールカウンセリングを体験的に学ぶことのできる機会を設定した。これに関しては、社会福祉法人ともいき会、ならびに長野吉田高校戸隠分校と連携し、4か月にわたる実習期間を設定して実習を行っている。 5. 「学校実習」における実習の一環として、WISC-IV知能検査等の心理検査を実施し、高校教育、生徒指導の一助となった。
2. 目標達成度に関わる所見と今後の展望	目標達成のために、①心理検査等福祉・病院臨床領域で必須とされる用具の整備充実、②学生の実習指導のための人員配置、③学生の外部実習機会の拡大という3つを掲げた。このうち、①については達成、③については一部達成、②については未達成という状況であった。配分予算の限界からこのような達成度となってしまうのだが、まずは③を優先的に達成し、今後②を学内版 GP もしくは他の予算獲得で目指していきたい。